



第44回 宇都宮市民芸術祭美術展 書道展

2023.5/25 木 — 5/28 日

[会場] 宇都宮市文化会館 展示室

[時間] 午前10時～午後5時 [最終日は午後4時まで]

[公開講評会] 5月28日(日)

午後1時～2時 審査員の先生による揮毫

午後2時～4時 公開講評会

主催：宇都宮市民芸術祭実行委員会（宇都宮市、宇都宮市教育委員会、公益財団法人うつのみや文化創造財団）

共催：宇都宮市文化協会

後援：宇都宮市民憲章推進協議会、株下野新聞社、株栃木リビング新聞社、株とちぎテレビ、NHK 宇都宮放送局、
宇都宮ケーブルテレビ株、株栃木放送、株エフエム栃木、タウン情報もんみや、宇都宮コミュニティ FM ミヤラジ

書 道

応募点数 107 点

入選点数 107 点

受付番号	賞	作 品 名	雅号(作家名)	受付番号	賞	作 品 名	雅号(作家名)
49	市民芸術祭賞	紙風船(自作)	登坂 時子	43	入 選	日落滄江…(陳孚)	岩村 一枝
9	準市民芸術祭賞	年逮者	鈴木 直樹	85	”	臨 真草千字文	薄井 咲弥
14	”	五月待つ(古今和歌集)	中村 秋蕾	18	”	臨 蘭亭序	内田 真緒
52	奨 励 賞	漢・無名氏 古詩十九首其一	岩上 智和	62	”	臨 伊都内親王願文(橘逸勢)	大越 咲弥
11	”	志ほのやま…	江田真粧美	81	”	事静欲	大武 朋生
8	”	鸞飛鶴舞	河合 恒明	64	”	臨 李嶠雜詠(伝嵯峨天皇)	小野 瑞葵
53	”	山蔦の露 龍之介の句	山本 響花	24	”	想心	小野寺泰子
3	”	情	吉岡 玉雲	70	”	早春三首其二	小花 弘子
86	秀 作	無明長夜	阿久津 希	32	”	元世父母……孫秋生劉起祖等造像記 臨	皆藤 美優
67	”	はるすぎて…	黒川 香織	76	”	破	加藤 あい
88	”	臨 灌頂曆名	小柳祐璃愛	93	”	臨 集字聖教序	加藤 瑠姫
36	”	やまかはの…西行のうた二首	佐野のり子	82	”	修徳立義	金子 鈴奈
6	”	福	佐野 麻理	26	”	紫蘇の実の…(伊藤伊那男)	金子 恵
38	”	破山寺後禅院(常建)	高根澤深幸	35	”	臨 祭姪文稿(顔真卿)	籙木 諭
34	”	山房春事(岑參)	塚田 湊心	103	”	臨 礼器碑	上代 栞
75	”	古今和歌集より	蔦 恵美	72	”	雲夢夕陽…(崔櫓)	川上 遊水
20	”	庭前落絮…	中村 翠光	83	”	臨 左繡序	川口 遼平
23	”	五風十雨「論衡(是応)」	奈良原翠風	101	”	臨 白氏詩卷	菊地 紬生
68	”	逢ふさかの…	防木 正華	45	”	游於藝(孔子)	菊地 芳子
1	”	寒山詩集の一首	古池 希風	31	”	無窮出清新	木島 翔夢
73	”	春雨到筆庵	宮下 幸鼓	30	”	雲深不知處	木島 來夢
5	”	文武不岐	山本 榮山	16	”	千鳥なく…	木嶋 麗雪
69	入 選	白楽天詩一節	飯島 裕太	87	”	開通褒斜道刻石	岸本 優也
58	”	臨 始平公造像記	飯村 美結	89	”	臨 温泉銘	狐塚 憲汰
33	”	瀑布山前…	池田 恵泉	65	”	臨 集字聖教序(王羲之)	君嶋ひなた
98	”	臨 魏靈蔵造像記	池田 恵音	105	”	陸游七言律詩	國友 映見
7	”	早朝大明宮呈兩省僚友	伊澤 玲子	2	”	雨降りお月(野口雨情)	久保 千樹
71	”	偶成	石井 美秋	46	”	雜詩	小池 東雲
97	”	臨 西狹頌	井上 世那	95	”	臨 初月帖	鯉沼 凜帆

受付 番号	賞	作 品 名	雅号(作家名)	受付 番号	賞	作 品 名	雅号(作家名)
28	入 選	臨 鬘龍顔碑	小口 佳水	17	入 選	舒頤句	平塚 祐子
44	〃	葉落風…	小熊 伸子	27	〃	暁起(暉寿平)	福富 古龍
77	〃	履行仁義	木暮真莉子	4	〃	自然	前田 義勝
48	〃	光陰のやがて…(岸田稚魚)	小林 恵子	80	〃	龍池望五雲	増形 由香
79	〃	身楽逸	齊藤 拓哉	84	〃	臨 黄庭堅集	松下 薫
39	〃	断	齋藤 洋子	92	〃	臨 祭姪文稿	丸茂 佐保
40	〃	この街が好き	齋藤 洋子	51	〃	江山風月本無常主閑者便是主人	箕輪 好恵
15	〃	越	櫻井 康貴	21	〃	熟田津に船乗りせむと…(額田王)	森田 典子
55	〃	考純考叔惟…	塩野 洋子	106	〃	画龍点睛	森戸 梅仙
50	〃	雙鶴(黄潛)	始澤 多恵	107	〃	臨 蘭亭叙(王羲之)	森戸 梅仙
90	〃	臨 興福寺断碑	白川 夏実	60	〃	臨 中務集 伝西行筆	森山 陽名
42	〃	恵	末永 洋子	74	〃	春回芳草呈新緑…	柳田 翠逕
66	〃	春雨の…(長塚節)	鈴木 聖寶	41	〃	白牡丹(自詠)	山岡 登美
13	〃	石	鈴木 健夫	25	〃	盡	弓座恵美子
56	〃	春暁 孟浩然的詩	鈴木 英男	96	〃	臨 魏霊藏造像記	横塚 葵
12	〃	喜	鈴木美代子	78	〃	龍吹鶴語	渡辺 彩斗
10	〃	題壁	高久 勝連	54	〃	木簡臨書	和田 芳華
61	〃	臨 孔子廟堂碑(虞世南)	高橋 明菜				
37	〃	不以言擧人	竹原 春香			[第43回市民芸術祭賞受賞者]	
47	〃	竹影掃階塵不動…	田崎 瑞夫			不忘遠(遠きを忘れず)	和賀 幸恵
99	〃	臨 建中告身帖	蓼沼 未來			[審査員・運営委員]	
104	〃	臨 白氏詩卷(藤原行成)	舘野 晴香		審 査 員	松風水月	岡村 白秋
59	〃	臨 蘇慈墓誌銘	綱川ななみ		審 査 員	神かけて	見目 月華
102	〃	耐雪梅花潔	中嶋 彩子		審 査 員	絶	五月女章子
100	〃	臨 牛櫛造像記	中舘和佳奈		審 査 員	逢原	鶴見 晨蒲
94	〃	臨 楽毅論	中野 真希		審 査 員	般若聲	松本 宜響
22	〃	歩	中村ひろみ		運 営 委 員	井底の蛙	赤澤 豊
57	〃	臨 地黄湯帖(王献之)	西井 千晴		運 営 委 員	圖南鳳翼・並駕齊驅	作佐部京子
63	〃	臨 雁塔聖教序(褚遂良)	沼野 凜果		運 営 委 員	北齋	中原 睦美
19	〃	臨 礼器碑	根本 光成		運 営 委 員	明器	福岡 俊介
29	〃	庭前落絮誰…	長谷川瑞香		運 営 委 員	盛	村松 太子
91	〃	臨 温泉銘	久松 千華				

漢字作品の類別とその特質

漢字は大別して、篆・隸・楷・行・草の五種類の書体があり、それぞれに書体そのものの特徴があります。漢字作品はこのいずれかの書体を基本として、作家それぞれの感覚と個性による制作がなされています。これらの書体は、行・草を除いては、同文の中で混用する習慣はほとんどありません。

【篆書】漢字の中で最も早く生まれた書体です。紀元前 1700 年頃から 300 年頃までの文字は亀の甲や獣の骨に刻したもの、又は青銅器等に鑄造されたもので、中国の殷・周の時代の頃のもの総称して古文と呼んでおり、その形体はさまざまです。

紀元前 300 年以降、東周から秦に到って、統制された書体になり、これを小篆といいます。

【隸書】この書体の起源も古く、紀元前 300 年頃の貨幣に残る記録がありますが、盛行したのは漢（紀元前 200 年以降）の時代です。実用的で簡便に筆記することを目的として生まれた簡素な書体を古隸と呼び、やがて、美的要求により、横画の末を長く払い出す八分隸という体が生まれて、この書体を代表するようになりました。

【楷書】今日の読みよい文字、つまり活字の母体となっているのが楷書です。その発生は後漢（紀元 20 年～ 220 年）の末頃、隸書に代わる書体として書かれるようになり、三国・六朝・隋・唐にかけて発達しました。殊に唐代は楷書の名家がその書を競って、楷書の黄金時代を築きました。現代の楷書作品は、むしろそれ以前の六朝時代北派の峻険な石刻文字や、温雅な魏晋の小楷を背景とする表現が多く見られます。

【行書】行書は楷書とほとんど同じ時期に生まれた書体で、最も広く書かれている普遍性のある書体です。行書が普及したのは東晋（紀元 317 年～ 385 年）の時代で、書聖王羲之の書が中心となって、その書跡の芸術性を鑑賞する風習が定着したことによります。それ以降書の名家が書品を競う風習が盛んになりました。

【草書】草書の発生は、楷書や行書より早く、紀元前 100 年頃前漢の時代に書かれたものが近年出土していますが、発達の経緯は行書と同じ東晋の時代に中国全土に広がり、王羲之・王献之を中心とする名家を輩出しました。草書は行書と調和することで、その後の書芸術の名品を多く残し、現代の書作品の中で最も大きな位置を占めています。